

「まどかは私の子供みたい」

小倉静香さん（元利用者妻・ボランティア）



お父さん（夫）は、好き嫌いがはっきりしていて朝迎えに来てくれても、行きたくないと「結構です」って断っちゃう。お父さんの介護を一人で抱えるのはやっぱりきつかったし、このままどうやっていこうかって思っていたから、みんなと一緒に考えてくれたりして面倒見るのもきつくなかった。

お父さんが亡くなるまで本当にみんな良くしてくれて感謝の気持ちで何かお礼がしたかったの。そしたらボランティアにすっかり入り込んだわけ。

面白かったこともいっぱいあって思い出すと笑っちゃうよね。後から色々聞いたら可笑しくて。お泊りなのに家に帰ってきちゃって、味噌汁をスタッフに出して。「食べなさい」って気持ちだったのかしら、最後まで先生だったのよね。

お泊りの夜、スタッフが起きてると「もう寝なさい」って電気消したって話を聞いて笑っちゃって、笑っちゃって。あんたなんかも授業をうけてくれたんでしょ？ Dさん（男性スタッフ）なんかお風呂に入れてくれようとしたら「一緒に入ろう」って言われたって大笑いしたよ。

お世話になっている時よりも、ボランティアで行き始めてからみんなのことが分かったかな。こういうところに面倒みてもらったんだ、お父さんは幸せだなって思うの。本人はまどかに「教えに行ってる」って言ってたけどね。

コロナでみんなと会えなくなっちゃってさみしいよ。話しができなくなった事は大きいね。みんな一生懸命働いていても何も手伝えないし、利用者さんとも会えなくなったからね。買い物に行くときに畑のスタッフに声をかけたりしたけどやっぱり違う。たまにスーパートヨダの奥さんに「まどかのみんながこっちの方にお散歩に行ったよ」って聞いて、会うようにもしたけれど、コロナが流行っているとなかなかまどかの中に入ることは難しいよね。みんなは変わらず元気なの？あんたたちの事も無理してないかなって心配してる。わたしも歳だからまどかにお世話になろうと思ったりするよ。息子が「こっちにこい」って言うけど、気ごろの知れたあんたたちのところにいたいと思ってるよ。

近所の奥さんやお友達も大事だけど、まどかがあるってこともわたしには安心になってるね。

（聞き書き・イラスト／多機能ホームまどか 田島薫）